（仮称）仙台経済成長戦略2030

変化を、成長の力へ
人・知・企業を結び、東北とともに未来を切り拓く

【中間案】

令和8年11月

仙台市

目次

- 策定の趣旨と仙台経済の現状 …… 3

- ビジョン …… 5
- 全体像 …… 6
- 数値目標 …… 8

- 視点1　重点支援分野の振興 …… 10
- 視点2　東北連携の深化 …… 12
- 視点3　産学官金の力の結集 …… 13

- 戦略軸とプロジェクト …… 14
- 戦略軸1　外から稼ぐ …… 15
- 戦略軸2　知から生み出す …… 16
- 戦略軸3　変化に対応する力を高める …… 17
- 戦略軸4　人の力が活きる …… 18

- ロードマップ …… 19

策定の趣旨と仙台経済の現状

1 策定の趣旨

現行の経済成長戦略である「仙台経済COMPASS（2024年度～2026年度）」期間中、物価上昇や人手不足、AIなどの技術進展により、企業を取り巻く環境は大きく変化しました。一方、ナノテラス（※1）の本格稼働や、東北大学の国際卓越研究大学認定、インバウンド需要の回復など、新たな成長の機会も生まれています。

「（仮称）仙台経済成長戦略2030」は、これまで進めてきた地域企業の変革や企業立地、域外需要の獲得に向けた取組みを土台に、東北全体で人口減少が進む局面にあっても、一人ひとり、一社一社の強みを活かし、国内外の需要や投資を取り込みながら、より高い付加価値の創出と持続的な経済成長を実現するために策定するものです。

2 （仮称）仙台経済成長戦略2030の位置づけ

本戦略は、まちづくりの指針である仙台市基本計画（令和3～12年度）を上位計画とし、経済分野の施策展開の指針となる成長戦略です。「仙台市観光戦略2027」や「せんだい都心再構築2036」などとの連携を図るとともに、「仙台市ダイバーシティ推進指針」（令和7年3月策定）の考え方にも留意しながら、施策を進めてまいります。

3 仙台経済COMPASSの現時点での実績

仙台経済COMPASSでは、多様な主体の活躍を促し、新たな市場への挑戦や、他分野との融合を通じた成長に取り組んできました。事業拡大意向は目標値を上回る一方、多様な人材の活躍と海外販路開拓は伸び悩んでいる状況を踏まえて、本戦略で重点的に強化します。

進捗管理指標	目標値（2026年度）	実績値（2026.10.1時点）
多様な人材の活躍に取り組んでいる企業割合	50%以上	37.5%
事業拡大に取り組む予定がある企業割合	30%以上	32.6%
海外販路開拓に取り組む企業割合	10%以上	5.2%
法人数（法人市民税均等割の納税法人数）	37,000法人	36,180法人
労働者数（個人市民税の納税義務者数）	490,000人	485,379人
企業立地件数（本市誘致による進出企業数）	100件	69件


人事評価制度策定や組織の一体感の醸成


学生や若者、外国人のチャレンジ促進



シンガポールや台湾等での展示商談会


旧印刷工場を活用したウェットラボ（※2）の整備


中核企業の成長支援


首都圏での企業誘致イベント

- ※1 … ナノテラス　：仙台市青葉区にある、世界最高水準の分析性能を持つ大型放射光施設
- ※2 … ウェットラボ　：実験設備を備え、研究開発や実証に活用される施設

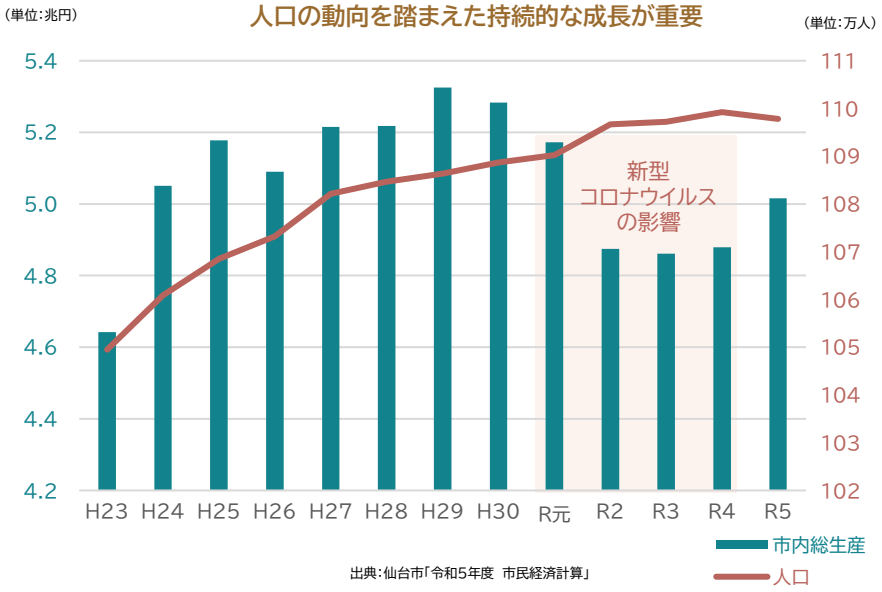
策定の趣旨と仙台経済の現状

4 強み・課題と環境の変化

	成長につながる要素	対応が必要な要素
仙台経済の特徴・現状	**活かす強み** • 大学や研究機関、ナノテラス、若者や高度人材の集積 • 東北の中枢都市としての商業、教育、医療機能 • 商店街や農業など、多様な事業や実証の現場	**成長に向けた課題** • 内需に支えられる第三次産業中心の経済構造 • 人材確保とデジタル活用の遅れ • コストや価値を価格や収益に反映しにくい事業環境
取り巻く環境の変化	**捉える機会** • AIなどのデジタル技術の進展 • インバウンド需要の回復 • 働き方の多様化に伴う人材の活躍機会	**見据える環境変化** • 東北の人口減少と本市の将来の人口動向 • 労働供給の制約とコスト上昇 • 技術や働く人のニーズの変化

人口と市内総生産（実質）の推移

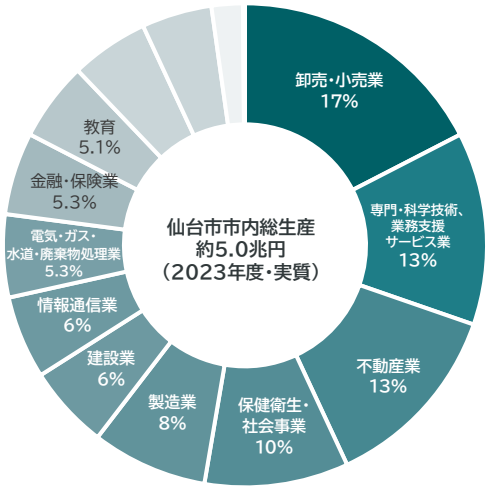
人口の動向を踏まえた持続的な成長が重要



出典：仙台市「令和5年度 市民経済計算」

市内総生産（実質）の構成比（2023年度）

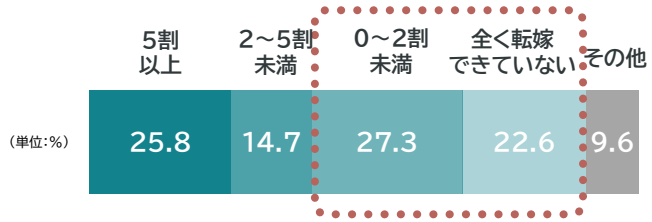
「卸売・小売業」を中心に第三次産業の割合が高い



出典：仙台市「令和5年度 市民経済計算」

直近3年間のコスト総額の価格転嫁率

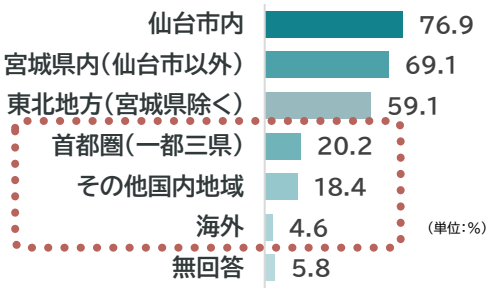
およそ半数が2割未満の価格転嫁にとどまる



出典：仙台市事業所・従業員実態調査（2025年度）

今後重視したい商圏（上位3項目の集計）

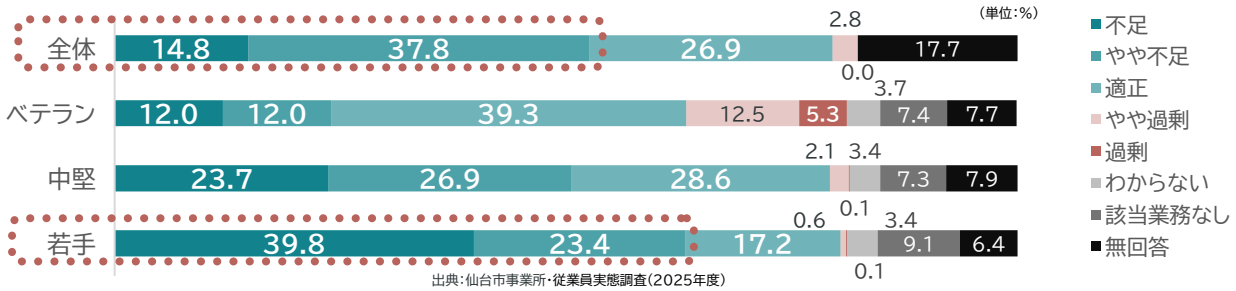
首都圏、その他国内地域、海外を重視する割合が低い



出典：仙台市事業所・従業員実態調査（2025年度）

現在の人材の過不足状況

全体の半数以上が人材不足を感じており、特に『若手』の不足が顕著



出典：仙台市事業所・従業員実態調査（2025年度）

ビジョン

変化を、成長の力へ
人・知・企業を結び、東北とともに未来を切り拓く

AIをはじめとするテクノロジーの進化が、
産業や働き方をかつてないスピードで変えています。

こうした潮流を捉え、
全国に先駆けて東北で進む人口減少に伴う社会構造の変容を、
いち早く新たな事業や市場につなげていきます。

ナノテラスや東北大学をはじめとする知の集積と、
東北の豊かな資源と多様な現場という「仙台らしい強み」を活かせる分野に力を集中し、
一都市、一企業の枠を越えて、東北各地や地域の産学官金がひとつになって取り組むことで、
一人当たりの付加価値を高め、誰もが「働きがい」と「豊かさ」を実感できる経済を実現します。

人・知・企業がつながり、仙台と東北がともに豊かになる未来へ。

仙台経済COMPASSで動き始めた「未来に向けた変革」を、次の段階へ。

これまで培ってきた仙台・東北の強みを土台に、
変化を新たな成長の契機に、「稼ぎ方」を変えていきます。

全体像

計画期間：2027年度～2030年度

ビジョン

変化を、成長の力へ
人・知・企業を結び、東北とともに未来を切り拓く

数値目標（KGI）

数値目標① 1人当たり実質市内総生産　490万円
（経済的豊かさ）

数値目標②　働きがいに満足している人の割合　80%
（働く人の実感）

3つの視点

※戦略全体に共通する横断的視点

視点1
重点支援分野の振興

「先端半導体」、「食・フードテック」、「ライフサイエンス」、「エッセンシャル産業」を重点的な産業領域とし、これらに「AI」と、「防災」を掛け合わせることで、既存産業の高度化と新たな事業の創出を同時に進めます。

視点2
東北連携の深化

仙台の人材・知・都市機能と、東北各地の企業・技術・資源を結び、東北の強みを一体にして、人・知・企業が循環し、東北全体として全国・世界から選ばれる成長圏を目指します。

視点3
産学官金の力の結集

地域の産学官金が方向性を一つにし、連携を強化し、多様な主体の力を結び、新たな事業・市場・成長環境をつくります。

4つの戦略軸と10のプロジェクト

戦略軸1　外から稼ぐ

地域の外に市場を広げ、成長の機会を取り込む

▼プロジェクト1
重点支援分野の成長と集積

▼プロジェクト2
中核企業の連携強化と成長加速

▼プロジェクト3
新市場開拓とグローバル展開

域内需要だけに頼らない成長に向け、
企業や投資の誘致と地域企業の成長、
域外市場の開拓を進めます。
成果を地域に波及させ、
仙台・東北が外から稼ぐ力を高めます。

戦略軸2　知から生み出す

研究や技術を事業につなげ、研究開発拠点の集積を進める

▼プロジェクト4
仙台イノベーションベルトの形成

▼プロジェクト5
課題起点の共創と事業化

大学や研究機関が持つ知・技術の事業化を進めるため、
大学・研究機関と地域企業を結びます。
研究開発・実証環境を整え、
企業や社会の課題解決を事業化・販路開拓につなげます。

戦略軸3　変化に対応する力を高める

変化に強い経営と産業基盤をつくる

▼プロジェクト6
AXによる生産性向上・事業改革

▼プロジェクト7
変化に強い経営基盤の構築

▼プロジェクト8
食の供給・流通・販売力強化

限られた経営資源でも成果を高められるよう、
AI等で生産性を高めるとともに、
食の生産・流通基盤を強化します。
適正な価格転嫁や価値向上で収益力を高め、
賃上げや次の投資につなげます。

戦略軸4　人の力が活きる

多様な人材が力を発揮し、成長する企業を増やす

▼プロジェクト9
成長分野・地域企業への人材還流

▼プロジェクト10
人的資本経営の実装

地域の仕事や一人ひとりの成長の場を
知る機会を増やし、人材の育成・還流を促します。
経営戦略と人材戦略を結び、
ダイバーシティの視点も踏まえ、
多様な人材が力を発揮することで、企業成長につなげます。

数値目標

経済の成長と働く人の充実をともに高めるため、「1人当たり実質市内総生産」と「働きがいに満足している人の割合」を最上位の数値目標に掲げます。
あわせて、地域経済や働く環境の変化を「KGIに関するモニタリング指標」で捉え、各プロジェクトのKPIで取組みの進捗・成果を確認することで、戦略全体の評価と施策の改善につなげます。

数値目標（KGI）

生産性向上や新事業の創出を通じ、1人当たりの付加価値を高める

1人当たり実質市内総生産　490 万円

基準｜457万円（2023年度）

※仙台経済COMPASSで掲げた2030年度における「実質市内総生産の過去最高額（2017年度）更新」への挑戦を継承し、本戦略では本格的な人口減少を見据え、1人当たりの付加価値向上を目標に据え、持続的な成長を目指します。

経済成長とともに、働く人の充実感や働きがいを高める

働きがいに満足している人の割合　80%（うち「満足」の割合35%）

基準｜76.6%（2025年度）「満足（26.0%）」と「どちらかというと満足（50.6%）」の合計

※アンケート調査における働きがいに満足している人の割合を高めるとともに、「どちらかというと満足」にとどまらず、「満足」と答える人を増やすことも重視します。

KGIに関するモニタリング指標
（地域経済や働く環境の変化を多面的に把握）

市内総生産総額	売上・営業利益増加事業所割合	1人当たり市民所得	「働きやすさ」の満足度
※市民経済計算により算出	※アンケート調査により算出	※市民経済計算により算出	※アンケート調査により算出

プロジェクト別の評価指標（KPI）

戦略軸1：外から稼ぐ

プロジェクト	KPI 指標	目標	基準
①重点支援分野の成長と集積	企業立地件数	110 社（4年計）	26 社（2025年度）
②中核企業の連携強化と成長加速	支援企業の付加価値額の平均成長率	15 %	13.9 %（2025年度）
③新市場開拓とグローバル展開	海外商談件数	1,520 件（4年計）	376 件（2025年度）

戦略軸2：知から生み出す

プロジェクト	KPI 指標	目標	基準
④仙台イノベーションベルトの形成	研究開発型企業・スタートアップ輩出・育成数	500 社（4年計）	102 社（2025年度）
⑤課題起点の共創と事業化	事業化支援件数	100 件（4年計）	23 件（2025年度）

戦略軸3：変化に対応する力を高める

プロジェクト	KPI 指標	目標	基準
⑥AXによる生産性向上・事業改革	企業の生産性向上支援件数	100 件（4年計）	10 件（2025年度）
⑦変化に強い経営基盤の構築	経営力強化に向けた支援企業数	480 社（4年計）	100 社（2025年度）
⑧食の供給・流通・販売力強化	地産地消の促進に向けた販売イベント開催数	170 回（4年計）	30 回（2025年度）

戦略軸4：人の力が活きる

プロジェクト	KPI 指標	目標	基準
⑨成長分野・地域企業への人材還流	成長分野の人材育成プログラム等受講者数	2,400 人（4年計）	367 人（2025年度）
⑩人的資本経営の実装	人的資本経営に関する取組みを行っている企業の割合	50 %（2030年度）	22.7 %（2026年度）

視点1　重点支援分野の振興

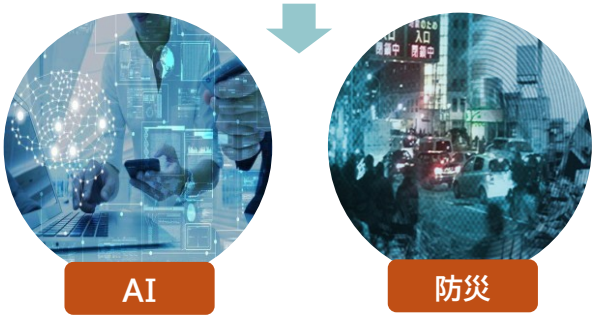
仙台・東北の強みを、次の成長を生み出す産業へ。

本市が持つ強みや資産の蓄積を活かし、将来の成長と地域経済への波及が期待できる分野に政策資源を重点的に投入します。

産業横断的な変革を促す「AI」と、本市と東北が知見と実績を有する「防災」を横断領域とし、「先端半導体」、「食・フードテック」、「ライフサイエンス」、「エッセンシャル産業」の重点的な産業領域に掛け合わせます。これにより、既存産業の高度化と新たな事業の創出を同時に進めます。

また、技術や市場環境、社会課題などの変化を継続的に捉え、新たな産業についても、成長性や、仙台・東北との親和性を見極めながら、機動的に支援していきます。







視点1　重点支援分野の振興



AI（バーティカルAI・フィジカルAI）

各分野との掛け合わせを進め、研究開発のほか、実証や導入を支援します。新たな製品やサービスの創出のほか、業務の効率化や機械の自動化等を通じ、地域企業の生産性や付加価値向上につなげます。



防災

防災環境都市や防災の中核拠点となるレジリエンス・ハブとしての発信力と、仙台BOSAI-TECH（※3）などの実績を活かし、AIなどの技術を掛け合わせ、研究から事業化・国内外の市場開拓を進めます。



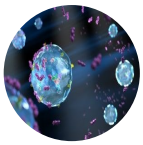
先端半導体

スピントロニクスや次世代パワー半導体など、東北大学を中心とした研究集積の強みを踏まえ、企業誘致や地域企業の参入を促し、東北各県とも連携しながら関連産業の集積を目指します。



食・フードテック

東北の豊かな農林水産資源と、産地と消費地が近接する強みを活かし、ナノテラス等の研究開発機能も取り入れながら、生産性や付加価値を高め、国内外への販路拡大を進めます。



ライフサイエンス

東北大学の東北メディカル・メガバンク機構（※4）や、国内唯一の医工学研究科等を活かし、創薬や医療機器、バイオ、ヘルスケア等の研究から事業化、スタートアップ創出までを関係機関と連携して後押しします。



エッセンシャル産業

市民生活と都市機能を支える医療、介護、建設、卸売・小売等のAIやデジタル技術、省力化設備などの導入と業務変革を支援し、地域にAX（※5）の効果を広げることで生産性を高め、持続的なサービス提供につなげます。

ロードマップ

本戦略期間から各重点支援分野における実装と成果創出を図り、中長期には取組みの高度化と地域への波及を進めます。

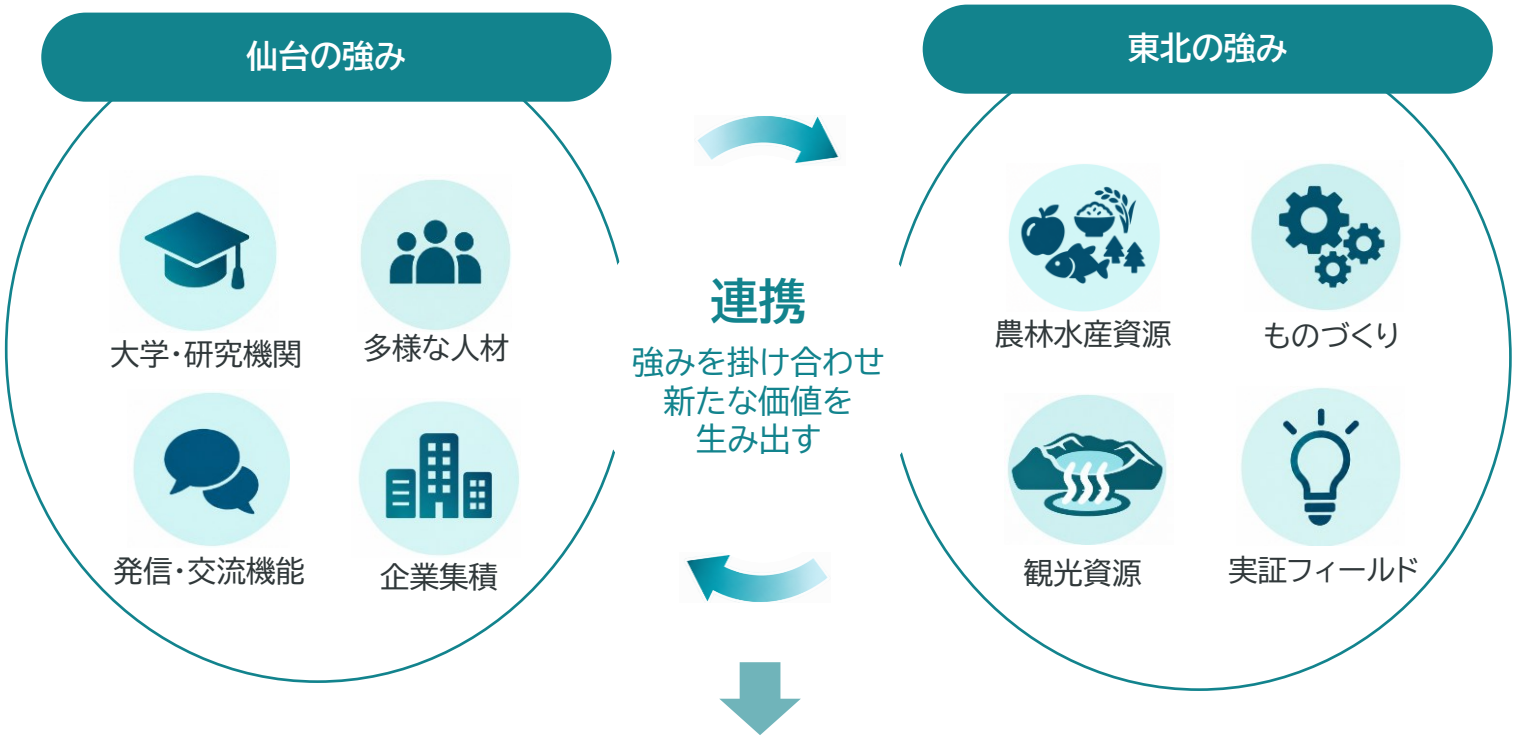
分野	本戦略期間（2027年度～2030年度） 基盤形成・実装・展開	中長期（2031年度以降） 成果の拡大・波及を目指す
AI （バーティカルAI・フィジカルAI）	実証環境の充実と、企業誘致や人材育成の取組み 防災など各分野と連携したAI実装の推進	実証・人材・資金を結ぶ 機能の強化
防災	製品やサービスの磨き上げと実証、商談 情報発信を通じた国内外への展開	同様の課題を持つ地域 へのモデル展開
先端半導体	地域企業の参入と取引開拓の支援 人材育成と研究開発拠点の誘致	研究開発機能と 関連企業の集積促進
食・フードテック	商品やサービスの高付加価値化 東北一体での販路開拓・域外需要の獲得	東北の食と国内外の市場 を結ぶ機能の強化
ライフサイエンス	研究シーズを活かした医工連携と事業化支援 事業化人材の確保とスタートアップの誘致	研究から製品化につなぐ 支援体制の連携強化
エッセンシャル産業	業種別の課題に応じたAX導入支援 省人化モデルの構築、効果検証による普及の取組み	省人化モデルの高度化と 東北への横展開

※それぞれの取組み内容や目指す成果は、市場や技術革新の動向等を踏まえ、必要に応じて柔軟に見直します。

- ※3 … 仙台BOSAI-TECH　：企業のテクノロジーを活用し、仙台市が防災・環境に係る課題の解決と新たな防災産業の創出を目指す取組み
- ※4 … 東北メディカル・メガバンク機構　：東北大学を中心に、住民の健康情報やゲノム情報を蓄積し、次世代医療の研究に活用する大規模研究基盤
- ※5 … AX　：AIトランスフォーメーション。AIを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直すこと

視点2　東北連携の深化

東北には、豊かな農林水産資源やものづくり、観光資源、実証フィールドなど、世界に誇れる多様な強みがあります。
仙台の人材・知・都市機能と、東北各地の企業・技術・資源を結び、新たな事業や市場を生み出します。



仙台と東北各地が互いの強みを活かし、
地域を越えた人材の活躍や企業の成長、投資・事業の機会を広げ、
仙台と東北各地がともに成長し、全国・世界から選ばれる東北を目指します。

成長産業の振興

東北、仙台の双方の強みを結び、新たな事業や研究開発、実証、企業間連携等を後押しします。

▼ 主な関連プロジェクト

①重点支援分野の成長と集積
③新市場開拓とグローバル展開
④仙台イノベーションベルトの形成
⑤課題起点の共創と事業化

成長機会の東北への拡大

中核企業・スタートアップ育成など、本市のネットワークや支援機能を東北へ広げ、地域を越えた成長機会をつくります。

▼ 主な関連プロジェクト

②中核企業の連携強化と成長加速
⑤課題起点の共創と事業化

東北一体での情報発信

東北の魅力や産業を一体として発信し、国内外への販路開拓、投資の促進、UIJターンなどにつなげます。

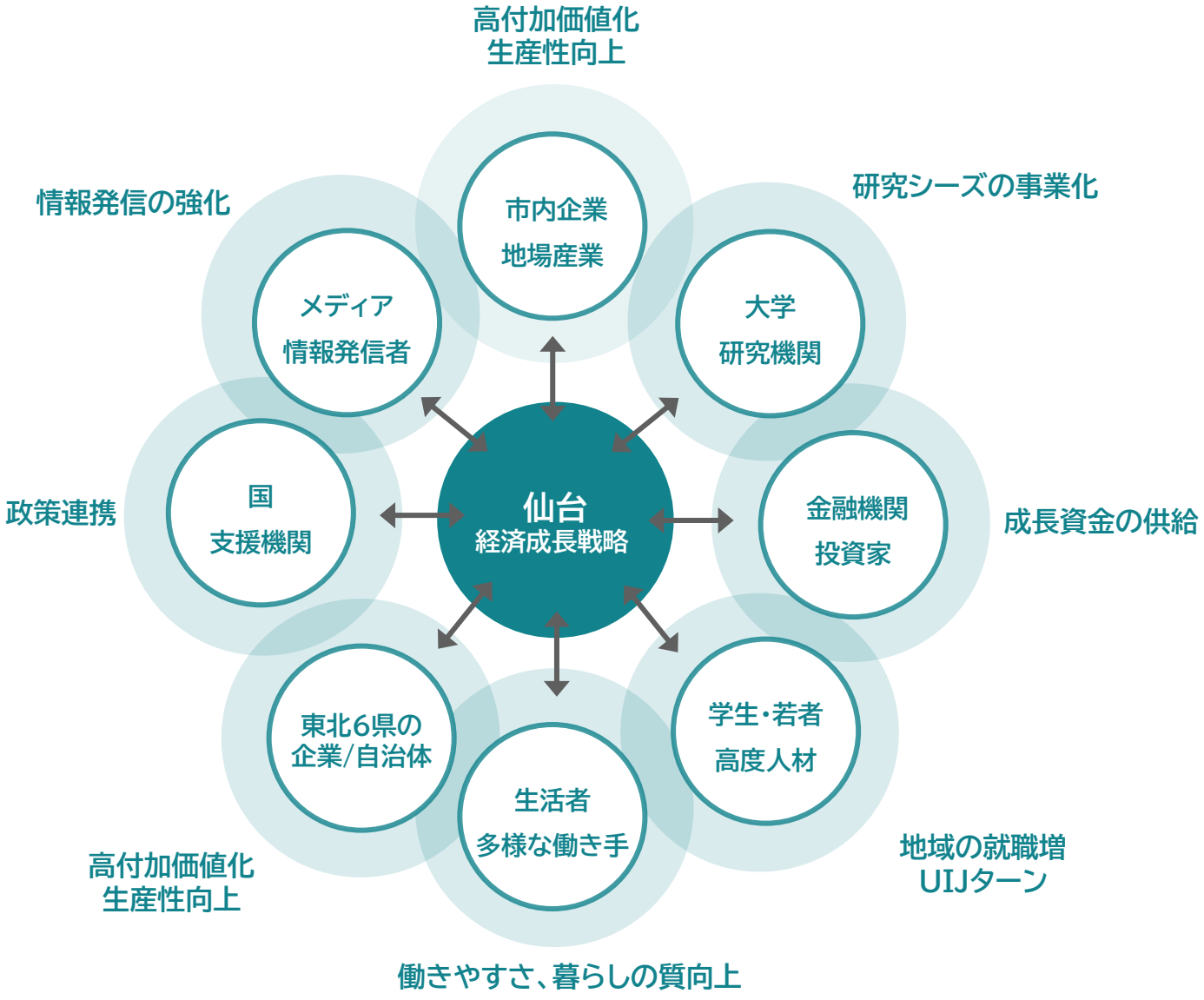
▼ 主な関連プロジェクト

③新市場開拓とグローバル展開
⑨成長分野・地域企業への人材還流

視点3　産学官金の力の結集

地域企業の事業や技術、大学や研究機関の知、金融機関の資金やネットワーク、行政の政策や制度など、それぞれの強みを掛け合わせ、新たな事業やサービスの創出につなげます。

また、経済政策だけでなく、まちづくり、観光、農業、教育、環境など庁内の政策を横断的につなぎ、分野を越えた「共創と実装」によって、新たな事業や市場、産業が生まれる環境をつくります。





首都圏との事業共創
（例：首都圏イノベーション拠点× 東北）



東北広域連携
（例：山形市 × 仙台市）



研究・実証・事業化
（例：大学 × 地域企業・商店街）



半導体産業等の成長産業の集積
（例：台湾 × 大学・企業・金融・行政）

戦略軸とプロジェクト

4つの戦略軸を結び、市場の拡大、知・技術の事業化、経営の強化、人の成長を連動させます。
それぞれの成果を互いの取組みに活かし、経済的な豊かさ（付加価値向上等）と働きがいが高まる好循環を生み出します。

戦略軸1

外から稼ぐ

地域の外に市場を広げ、
成長の機会を取り込む



プロジェクト 1
重点支援分野の成長と集積

プロジェクト 2
中核企業の連携強化と成長加速

プロジェクト 3
新市場開拓とグローバル展開

戦略軸2

知から生み出す

研究や技術を事業につなげ、
研究開発拠点の集積を進める



プロジェクト 4
仙台イノベーションベルトの形成

プロジェクト 5
課題起点の共創と事業化

「経済的豊かさ」と
「働きがい」の
好循環

戦略軸3

変化に対応する力を高める

変化に強い経営と
産業基盤をつくる



プロジェクト 6
AXによる生産性向上・事業改革

プロジェクト 7
変化に強い経営基盤の構築

プロジェクト 8
食の供給・流通・販売力強化

戦略軸4

人の力が活きる

多様な人材が力を発揮し、
成長する企業を増やす



プロジェクト 9
成長分野・地域企業への人材還流

プロジェクト 10
人的資本経営の実装

戦略軸1　外から稼ぐ

域内需要だけに頼らない成長に向け、企業や投資の誘致と地域企業の成長、域外市場の開拓を進めます。
成果を地域に波及させ、仙台・東北が外から稼ぐ力を高めます。

プロジェクト１｜重点支援分野の成長と集積

○戦略的な企業誘致

首都圏のイノベーション拠点等を活用し、AI等の重点支援分野の企業に対し、本市の事業環境や成長を支える取組みを戦略的に発信することで、本市への企業進出及び投資を促進します。

○地域企業との取引・協業の創出

重点支援分野を中心に大企業や地域企業と、大学の連携を強化し、共同開発や地域での調達を促すことで、新たな取引や雇用へ波及効果を広げます。

KPI　企業立地件数　110社（4年計）



市職員による首都圏企業訪問

プロジェクト２｜中核企業の連携強化と成長加速

○課題と成長段階に応じた一体的な伴走支援

成長志向の高い企業に対して重点的な伴走支援を行うとともに、地域企業、金融機関、大学、専門人材等とのつながりを広げ、成長に必要な人材・資金・知見・協業機会を得ることで、更なる成長を後押しします。

○東北広域での中核企業育成と企業間連携

東北の企業や支援機関、自治体と連携し、成長企業を対象とした経営者交流、企業間マッチング等を展開します。地域を越えて企業や支援機関をつなぎ、協業や新たな市場の獲得など、東北全体で成長機会を広げます。

KPI　支援企業の付加価値額（※6）の平均成長率　15%



中核企業を広めるシンポジウム

プロジェクト３｜新市場開拓とグローバル展開

○関係機関と連携した国内外への販路開拓支援の強化

国内外の企業・大学・金融機関等との新たな支援体制を構築し、重点支援分野を中心とした販路開拓や、東北一体での展示会・物産展等への参加を支援することにより、仙台・東北の企業の国内外への展開を促進します。

○観光・地域資源を活かしたインバウンド需要の獲得

外国人観光客の増加を捉え、商店街や商工業者等と連携し、地域の商品やサービスの魅力向上や、受入環境の整備を進め、観光需要を地域での消費につなげる取組みを拡大します。

KPI　海外商談件数　1,520件（4年計）



仙台・東北フェアinタイへの出展

・　※6 … 付加価値額　：営業利益＋人件費（給与・賞与・福利厚生費等）＋減価償却費

戦略軸2　知から生み出す

大学や研究機関が持つ知・技術の事業化を進めるため、大学・研究機関と地域企業を結びます。
研究開発・実証環境を整え、企業や社会の課題解決を事業化・販路開拓につなげます。

プロジェクト 4｜仙台イノベーションベルトの形成

○研究開発環境・共用施設の充実

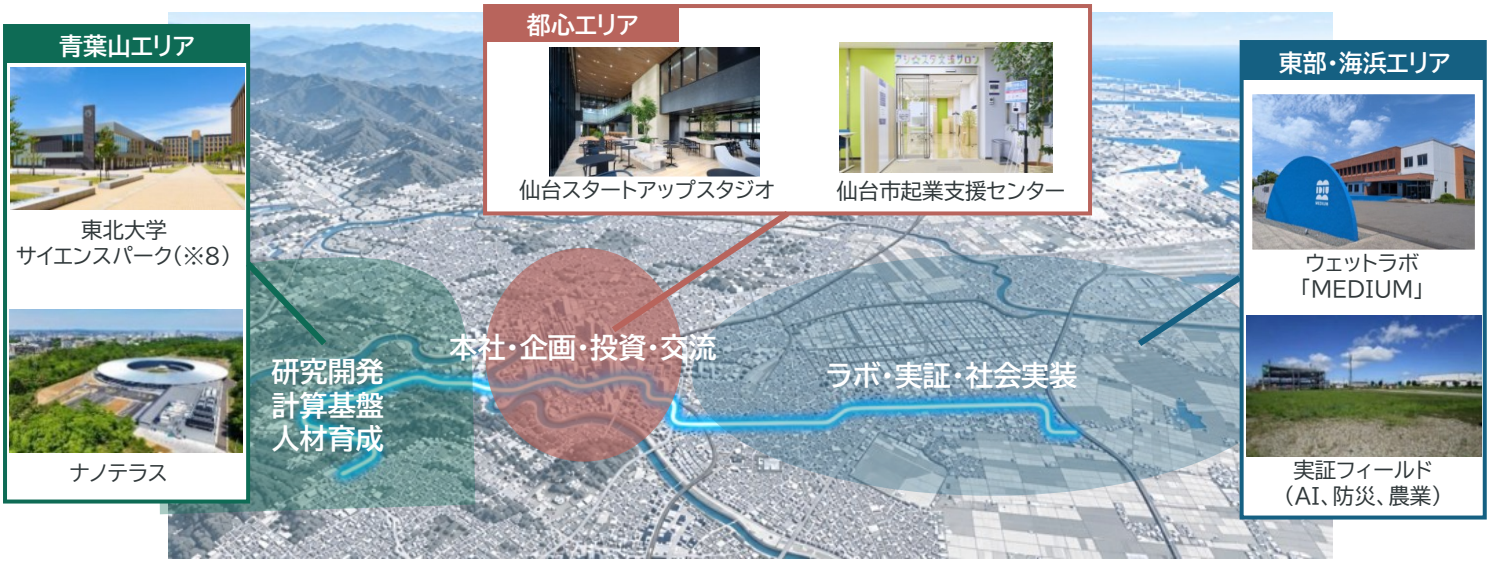
ナノテラスの利用支援やスタートアップの創出・成長支援に加え、市内の未利用不動産等を活用したリノベーションによる実験設備を備えたウェットラボ等の整備や運営を促し、リサーチコンプレックス（※7）の広がりを生み出すことで、イノベーションの創出につなげます。

○まちを活用した先進技術の実証フィールド

中心部商店街の空き店舗や、東部の未利用地等を実証フィールドとして活用します。重点支援分野を中心とする先端技術の実証や、市民参加型の実証を促進し、社会実装を加速します。

地下鉄東西線の沿線・海浜エリアを中心としたイノベーションベルトの形成

研究から社会実装までを、近接したエリアでつなぐ（青葉山エリア～東部・海浜エリア：約30分、15km程度）



KPI　研究開発型企業・スタートアップ輩出・育成数　500社（4年計）

プロジェクト 5｜課題起点の共創と事業化

○課題と技術を結ぶ共創の拡大

人手確保や技術継承など業種を越えた課題に対して、地域企業やスタートアップ、大企業を結び付け、プログラムを通じた課題解決や新たな事業創出を促進します。

○起業・事業化と市場開拓の支援

起業を支援するとともに、仙台・東北をフィールドに開発されたＡＸソリューションの事業化に向けた伴走支援を通じて、大企業との協業や市場参入、販路開拓につなげます。

KPI　事業化支援件数　100件（4年計）



大阪・関西万博でのBOSAI-TECHの展示

- ※7 … リサーチコンプレックス　：大学や研究機関、企業などが集積し、研究成果の事業化や新産業創出を目指す研究拠点
- ※8 … サイエンスパーク　：東北大学青葉山キャンパスを中心に整備が進む、産学官連携による研究開発や新産業創出の拠点

戦略軸3　変化に対応する力を高める

限られた経営資源でも成果を高められるよう、AI等で生産性を高めるとともに、食の生産・流通基盤を強化します。適正な価格転嫁や価値向上で収益力を高め、賃上げや次の投資につなげます。

プロジェクト 6｜AXによる生産性向上・事業改革

○AI導入計画、人材や資金の一体支援

金融機関や専門家と連携し、業務分析からAIの導入計画、人材育成、資金調達、社内体制の構築までを一体で支え、導入後も自ら改善を続けられる企業を増やします。

○AIの実装と活用事例の横展開

大手企業と連携し、重点支援分野を軸に、AIの実証・事業化と導入を進めます。設備投資や業務改善も組み合わせ、効果的な活用事例を地域企業へ広げ、生産性向上につなげます。

KPI　企業の生産性向上支援件数　100件（4年計）



AI活用の成果発表

プロジェクト 7｜変化に強い経営基盤の構築

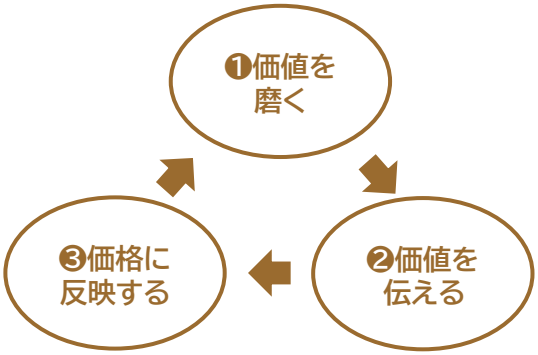
○高付加価値化と適正な価格転嫁による収益力向上

原価や顧客ニーズ等を分析し、商品・価格設計の見直しを支援します。ブランド力・情報発信の強化も一体的に進め、提供価値やコストを適切に価格へ反映できるよう、収益力向上を後押しします。

○外部環境の変化に対応した事業継続力の向上

社会経済情勢の変化や多様なリスクに備えるため、BCP（事業継続計画）の策定や脱炭素経営の推進等を通じて、環境変化に柔軟に対応できる経営の強靭化を図ります。

KPI　経営力強化に向けた支援企業数　480社（4年計）



プロジェクト 8｜食の供給・流通・販売力強化

○生産・流通基盤の強化

多様な担い手の確保と育成、スマート農業の普及拡大による生産性向上に加え、中央卸売市場の再整備などを進め、変化に柔軟に対応できる安心安全で持続的な食の生産・流通基盤を強化します。

○価値向上と販路の拡大

仙台の農畜産物のブランド力・商品力・PR力を高め、農商工連携や国内外への販路開拓を進めることで、食に関わる事業者の収益力向上と域外需要の獲得につなげます。

KPI　地産地消の促進に向けた販売イベント開催数　170回（4年計）



地産地消の取組み発信

戦略軸4　人の力が活きる

地域の仕事や一人ひとりの成長の場を知る機会を増やし、人材の育成・還流を促します。経営戦略と人材戦略を結び、ダイバーシティの視点も踏まえ、多様な人材が力を発揮することで、企業成長につなげます。

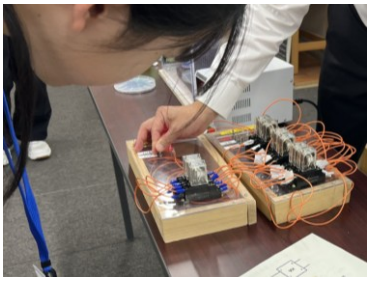
プロジェクト 9｜成長分野・地域企業への人材還流

○産業・キャリア教育と実践的な学び

小中高生等にAIや半導体、起業等を切り口とした学びを広げ、企業・大学と連携した実践的な機会を提供することで、将来の産業を担う人材や、AIを活用できる人材を育成します。



国立陽明交通大学（台湾）と連携した教育事業



東北大学などでの小中高生向け教育事業
※提供：東北大学マイクロシステム融合研究開発センター（μSIC）



中高生向け起業家講師による出前授業

○多様な人材と地域企業との接点づくり

大学生・高校生等の若者や留学生と地域企業との接点を創出し、相互理解を深めることで地域企業への就職を後押しするとともに、首都圏で働く仙台・東北出身者に対して魅力ある地域企業や暮らしに関する情報を発信し、UIJターンや副業・兼業を通じた人材還流を促します。



留学生と地域企業のマッチングイベント



首都圏でのUIJターンイベント



地域企業での就業体験・インターンシップ

KPI　成長分野の人材育成プログラム等受講者数　2,400人（4年計）

プロジェクト 10｜人的資本経営の実装

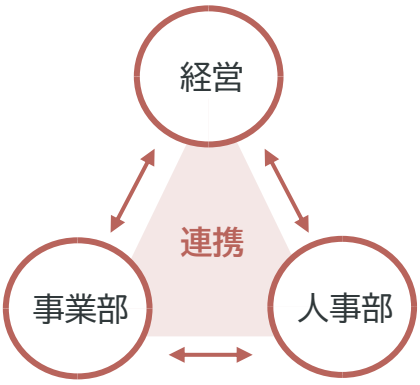
○経営戦略と人材戦略の一体化

経営戦略と人材戦略の一体的な推進に向け、戦略策定から人事施策の実装までを伴走支援するとともに、支援対象企業の取組みを広く発信し、人的資本経営に取り組む地域企業を増やします。

○多様な人材の活躍を支える組織づくり

人材の採用や定着に関するコンサルティングやセミナー、将来の中核を担う人材育成、組織風土の改善などを通じて、性別・年齢・国籍等を問わず、多様な人材が力を発揮し働き続けられる魅力的な企業を増やします。

KPI　人的資本経営に関する取組みを行っている企業の割合　50%

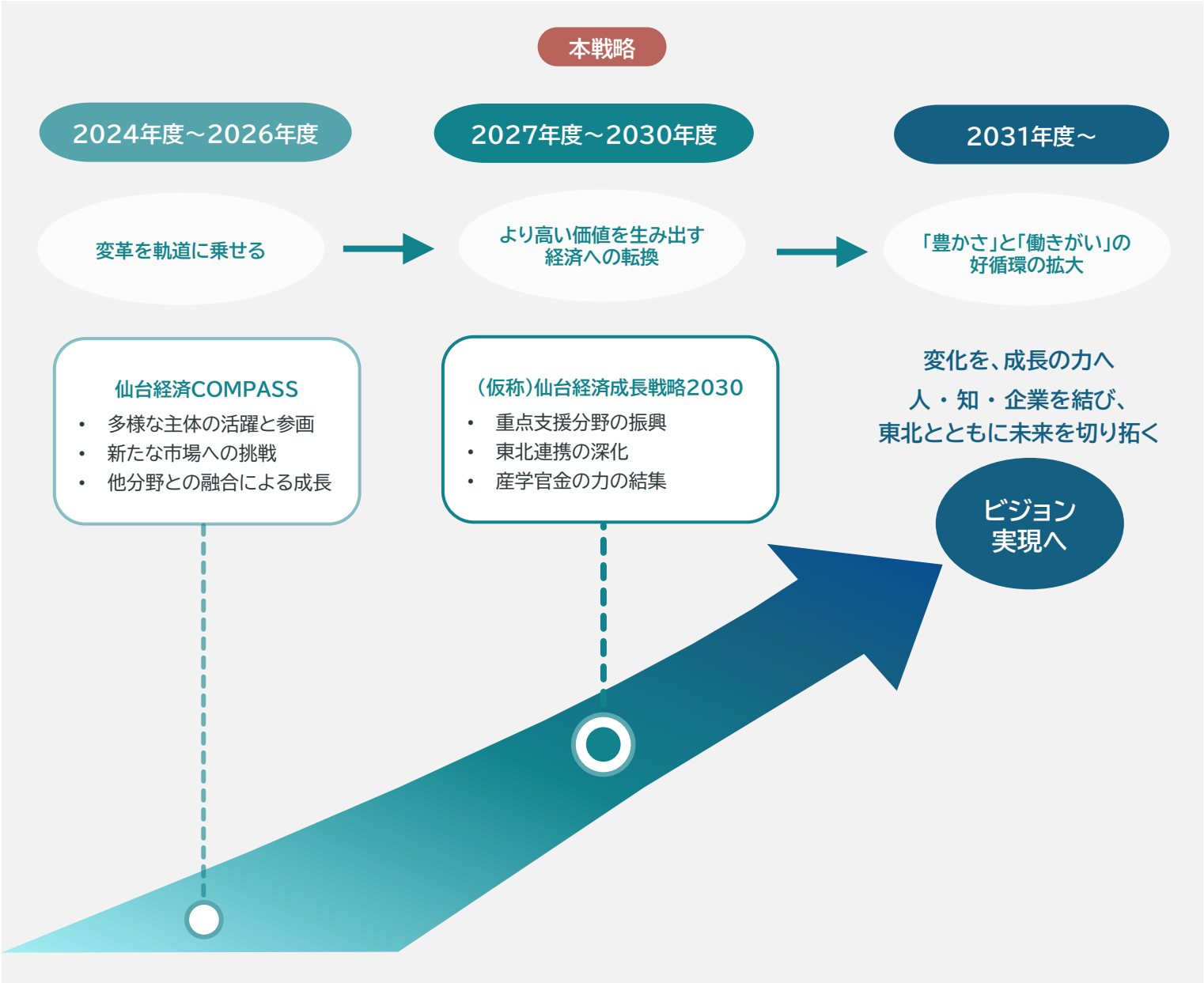


三位一体での経営の推進

ロードマップ

仙台経済COMPASSで動き始めた「未来に向けた変革」を、次の成長へ。

本戦略では、仙台・東北の強みを活かして、より高い価値を生み出す経済へ転換し、人材や知見、企業の成長が仙台市内にとどまらず、東北6県を視野に入れた地域全体へ波及する好循環を生み出します。2031年度以降も、その流れをさらに加速、拡大していくことを目指します。



SDGs（持続可能な開発目標）



本戦略は、持続可能な開発目標（SDGs）の理念を踏まえ、経済成長と社会・環境の調和を図りながら、持続可能で活力ある地域経済の実現を目指します。

特に、人材の育成と活躍、企業の成長やイノベーション、働く環境づくり、地域内外との連携など、戦略に掲げる取組みを進めることで、地域経済の成長とSDGsの達成に貢献していきます。